

1. 沼田高校歌について

- (1) 沼田は北毛(群馬県北部)の交通の要衝であり、戦国時代には上杉・武田・北条がその領有をめぐる激しく対立した。また沼田城は16世紀前半、倉内(くらうち)に築かれ、鞍打城とも呼ばれた。沼田高校歌1番の冒頭「北毛の要(ほくもうのよう)、鞍城址(あんじょうし)」とは此のことを指している。
- (2) 沼田高校は明治30年4月に群馬県尋常中学校利根分校として創立された県立の男子高で、校訓は「進取勤勉」「和親協同」「質実剛健」(大正9年制定)である。
- (3) 沼田高校歌は大正12年に制定された(同校ホームページ「沿革」欄による)ものだが、大正7年10月～同10年3月に掛川中学校で、また同11年9月～同13年10月に沼田中学校で、国漢を教えていた岩崎莞爾教諭が大きく関わっている。
- (4) 同校歌1番3行は「基(もと)固めて桔梗(けっこう)の」となっているが、この桔梗(けっこう)とは沼田藩主土岐家の家紋である。
掛川西高の校章が掛川特産の葛の葉3枚の間に掛川藩主太田家の家紋である桔梗の蕾を配していることと好一對と云えよう。
(なお掛西校歌の「基」は「ドレ～ミ」であるが、沼高校歌は「レ～レミ」である)
- (5) 『沼高七十年史』(昭和43年)は校歌について、「歌詞そのものの良否や、曲が他からの借譜であろうが、大正12年から今日まで、入学式や卒業式など数多くの行事に、また対抗試合の度に、生徒の哀歓をこめて歌われてきた校歌であり、みずから湧き出たもの、すでに本校の血肉となったものと見てさしつかえないと思う。まさに立派な校歌である。」としている。
- (6) まさにその通りであろう。しかも今や100年近く歌い継がれている校歌である。両校の校歌の類似は、現代の「オリジナル対コピー」といった価値観で捉えるべきものではなく、掛川の地で咲いた桔梗を百年前に沼田へ株分けした教師がいたということではないだろうか。今日を好機として両校の親睦を深めたいものである。

2. 沼田高校在京同窓会について

- (1) 沼田高校在京同窓会は、明治30年～昭和4年の間、沼田中学一筋に奉職され、のち東京にお暮しであった飯田万吉先生の警咳に接したいとの沼中OBの希望を受け、昭和6年2月に開催された「飯田先生御招待在京卒業生の集い」が契機となり、同年5月に第1回在京同窓懇親会が開催され、以後連綿と続いている。
- (2) 飯田万吉先生は、冀北学舎を卒業した山崎覚次郎らと同時期に本郷の春廼屋に寄宿して坪内逍遙の指導を受けた(恐らく)旧横須賀藩士であり、これも不思議なご縁と言えよう。

沼田高等学校 校歌

1. 北毛の要鞍城址

その高陵にわが校は

基固めて桔梗の

薫り行くこそめでたけれ

2. ああ山川の秀麗を

享けて理想の武陵源

あはれ惰弱のけがれなく

永久に軽浮の塵すゑじ

3. いづれおとらぬ若人の

心も赤き赤城山

青春の志をなすまでは

うまずたゆまず進みなむ

4. 三国おろしの荒ぶとも

武尊の吹雪おそうとも

剛健の意気身にひめて

学びの海に棹ささむ

5. 文殊の水の滴りは

暫し木の葉の下くぐり

清濁併せやがてまた

坂東の野をうるほさむ